

児童会・生徒会活動

児童・生徒の諸活動
についての連絡調整

指定校番号	28070	学級活動	生徒会活動	○	学校行事	別紙様式
-------	-------	------	-------	---	------	------

平成 28 年度生徒指導集中対策指定校及び生徒指導実践指定校「特別活動の取組事例」

学校名	広島市立庚午中学校	校長	原之園 和弘	生徒指導主事	藤井 麻里
-----	-----------	----	--------	--------	-------

取組事例名 『無言清掃』

取組のねらい『キーワード 予防的生徒指導』

学校の一員として、よりよい学校生活へ貢献するための役割や責任を果たし、学校生活全体の充実・向上を図ろうとする意欲や態度を育てる。

取組の具体的内容『キーワード ユニバーサルデザイン』

学校全体で掃除の仕方を統一したことで、学年・学級の温度差をなくし、進級しても、生徒が混乱しない仕組みになるよう工夫した。役割や手順をはっきりさせ、どの生徒にとっても活動しやすく集中して取り組めるものになった。



取組の課題・創意工夫『キーワード 一生懸命、役割を果たす』

- ① 無言清掃をイメージ化するための「無言清掃DVD」を作成し、年度初めに全校生徒で視聴する。学校全体で、意識統一が図れ、どの先生も、どの学級も「揃える」ことができた。生徒が「まじめにするってかっこいい」「きれいになるのは気持ちいい」という意識づけを行うことに効果があった。
- ② 実践的な校内研修を実施する。
導入に当たっては、事前に校内研修を行い、教師自身が生徒と同じ目線で清掃活動を体験した。
- ③ 校区内全小中学校で実施する。
小中連携の一環で小学校と共に無言清掃を取り入れる事にし、お互いの交流を行った。
- ④ 役割を明確化し、3ヶ月間、掃除の分担を固定する。
自分の役割がはっきりし、テキパキと集中してできる。また、掃除の手際がよくなり、自分の持ち分に誇りを持って掃除するようになった。
- ⑤ 音楽の効果（移動整列の「音楽A」、黙想の「音楽B」）を取り入れる。
掃除時間が「静かな時間」を作り出した。無言で静かな環境の中で掃除することで『一生懸命掃除する』姿が生まれた。ひいては、しんどいことでも一生懸命に取り組む姿を育成することができた。
- ⑥ 毎日定例で掃除できるようにした。
「今日は掃除がない」などの不定期では定着しない。毎日の積み重ねを大切にした。
- ⑦ 雑巾がけを基本にした。
丁寧な拭き方「庚午ぶき」を示し、雑巾がけを全員で取り組むことで、道具の破損が激減すると同時に学校の隅々まできれいになった。
- ⑧ 生徒会委員会を活動の中心にし、校内美化を推進した。
「掃除リーダー」会の運営、無言清掃の説明、アンケート集約など委員会が積極的に活動し、「無言清掃」を学校の中心に据えた。



取組の成果（効果）『キーワード 自己肯定感』

- ・ 無言清掃のアンケートでは、「無言で集中して行う習慣がついた」「3ヶ月同じ仕事をやることで責任を持ち役割を果たすことができた」「『気づき清掃』までするので、やりきったという達成感が持てた」などの意見が聞かれた。
- ・ 昼食放送で「無言清掃」の肯定的評価を放送することで生徒の意欲を喚起した。
- ・ 生徒アンケートでは「一生懸命掃除をしている」の項目で、「良く当てはまる」と回答した生徒は、無言清掃の前の24, 7%→71, 4%と飛躍的に向上した。さらに「一生懸命掃除をする」ことで教室を大事にするようになった。3年生は模擬面接の回答で「庚午中学校の良いところは」を「無言清掃」と答える生徒が多かった。自分のがんばりに自信を持って答えられる活動となっている。

今後の展開『キーワード 無言の力 無言移動・無言集合』

- ・ 「朝読書」と「無言清掃」で静かな時間を持つことで、生徒全体の落ち着きを育てた。
- ・ 「無言清掃」の取組2年目となる今年は「無言移動・無言集合」を朝会に生徒会が取り入れた。「無言」集合することにより「しっかり聞く」ことができるようになっている。修学旅行や野外活動などの行事でも「無言集合」することで指示が徹底するようになった。生徒会の「無言の力」「空気を読む」など安心安全な学校を生徒会が推進している。

他校へのアドバイス『キーワード ベクトルを揃える』

「無言清掃」を学校全体で取り組むことで、担任一人で学級をつくるのではなく、学年・学校で学級を作っていく取組の一つになっている。また、生徒は褒められることが多く、自己肯定感がもてる活動になっている。学校全体で学級づくりを支える活動になった。転勤者や初任者にとっても、学校全体が取り組んでいることで、指導が通りやすく、落ち着いた人間関係が作りやすい。当たり前のレベルが高いことが、学級経営に好影響を与え、学習意欲の向上につながった。

指定校番号	28079	学級活動	児童会・生徒会活動	<input type="radio"/>	学校行事	別紙様式
-------	-------	------	-----------	-----------------------	------	------

平成 28 年度 生徒指導 集中対策指定校及び生徒指導実践指定校 「特別活動の取組事例」

学校名	広島市立観音中学校	校長	中山 昭彦	生徒指導主事	森光 千佳
-----	-----------	----	-------	--------	-------

取組事例名 『三無言プロジェクト・GGキャンペーン』

取組のねらい『キーワード 習慣 』

【三無言プロジェクト 無言読書・無言集合・無言清掃】

- 無言読書・・・静かに落ち着いて一日のスタートをきれいにさせる。
- 無言集合・・・無言集合することによりその場の気配や空気を感じて行動する力をつける。
- 無言清掃・・・一人ひとりに割り当てられた場所の清掃を無言で行うことで時間を守り、責任感を身につける。

「無言」の目的

- ① 集中力を高める（私語をせず、物事に真剣に取り組む力を高める）
- ② 感情のコントロール（相手のことを考えて感情をコントロールする。感情をコントロールすることで、お互いのことを理解し、つながることができる。また、お互いを気遣う事で思いやりの心を持つことができる）
- ③ 人に迷惑をかけない（人が集まる場所など、その場に合わせ静かにすることで周りに迷惑をかけない）

【GGキャンペーン】(Good Greetingキャンペーン)

あいさつの意味を考え、自ら進んで気持ちの良いあいさつをすることができる力をつける。

この2つの取組により、きれいな環境の中で落ち着いた生活を送り、はじめのある行動をとることができる。日々の習慣を通して、安定した自分を創ることができるということに気づかせる。

取組の具体的内容『キーワード 実行 』

【三無言プロジェクトの実施】

- 無言読書：定刻になったら無言で読書をはじめ。
- 無言集合：朝会や集会など人が大勢集まる時に無言で集合する。
- 無言清掃：清掃を無言で行う。

【GGキャンペーン】(Good Greetingキャンペーン)

- ① 教職員が「すばらしいあいさつ」をしてくれた生徒にGGシールを渡す。(同じ先生から1日1枚しかもらえない)
- ② そのシールをもらったら教室にあるGGポスターに貼る。GGシールが規定のポイント(50ポイント)貯まったらGGバッジが授与される。

取組の課題・創意工夫『キーワード 明確 』

【三無言プロジェクト】

- 「無言」の状態を作る為の指示の出し方を明確にする。
文化図書委員が定刻になったら読書の呼びかけをし、読書を静かに始めるための準備をさせる。
- 「無言集合」
生徒会執行部と代議員で「無言」プラカードを作成し、朝会や全校集会、学年集会で執行部と代議員が「無言プラカード」掲げ、無言指示で無言集合をさせる。

- 「無言清掃」については定期的に生活環境委員で反省を行い、改善を図る。
生徒会執行部と教員で協力して「無言清掃」の目的と行い方を示したDVDを作成し、全校集会で視聴し、実施した。(10月から継続中)

【GGキャンペーン】

- 「あいさつ」の基準を明確にし、判断をしやすいようにした。
「すばらしいあいさつ」の基準
 - ◎ 立ち止まって、会釈をそえて、大きな声であいさつをする。
- 最終的に授与されるバッジのデザインを体育委員会から生徒に募集し、デザインを決定した。

取組の成果(効果)『キーワード 未来』

三無言プロジェクトは、各委員会の協力により定着しつつある。特に、無言読書と無言集合はほぼできつつある。無言清掃については、生徒も興味を持ち、新執行部も選挙のときにはこのプロジェクトを進めていきたいと公約をしてくれた。

GGキャンペーンの実施により、校内の「あいさつ」が増え、「あいさつ」を通して、生徒と生徒、生徒と教職員の会話も増えるなど、コミュニケーションを図れる場面が多くなった

この取組を続けることでいろいろな未来に繋がり、たくさんの可能性が広がると思う。

今後の展開『キーワード 改善』

三無言プロジェクト、GGキャンペーンはやりっぱなしにせず、反省し改善する。改善するときには生徒の意見やアイデアを大切にし、生徒の思いが実現できるよう教師がアドバイスや手助けをする。

他校へのアドバイス『キーワード 挑戦』

「とにかく挑戦」アイデアをある程度形にしてやってみる。やろうやろうと先延ばしにするとずっとできないのでやってみて改善し、さらに良いものにしていくという考えで取り組む。

指定校番号	28088	学級活動	児童会・生徒会活動	○	学校行事	別紙様式
-------	-------	------	-----------	---	------	------

平成 28 年度生徒指導集中対策指定校及び生徒指導実践指定校 「特別活動の取組事例」

学校名	福山市立神辺中学校	校長	金田 耕治	生徒指導主事	山口 義哉
-----	-----------	----	-------	--------	-------

取組事例名 『いじめSTOP集会』

取組のねらい キーワード『いじめカッコ悪い』

・“いじめ”について改めて考えるきっかけを与え、「いじめは人間として絶対に許されない」という意識を一人一人の生徒に徹底させる。

取組の具体的内容 キーワード『傍観者にならない』

- ・ 7月，1年生学活の授業で「こんな時あなたは，どうする？」（LINE上でA君がB君に「C君について悪口を書こう」と言われた時のB君の対処方法）についてロールプレイする。 → 実際に起こりうることを実感させる。
- ・ 7月，平和集会で生徒会がプレゼンテーションを行う。従来行ってきた戦争や核など生徒にとって大きいテーマから身近なことへ落とし込むことにより、「いじめ」について考える。



私の行動宣言

- ①NHK「わたしの行動宣言」に参加し，全校生徒がいじめを減らすために自分にできることを宣言文としてNHKに送付する。
- ②NHKのホームページにUPされる。
- ③校内に掲示する。
- ④10月にNHKから取材依頼があり，取組を取材してもらう。
- ⑤10月29日NHKいじめをノックアウトスペシャルで放送される。

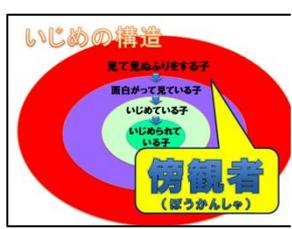


いじめSTOP集会

- ①8月，全校登校日に「いじめSTOP集会」を実施する。



- ②いじめの構図について学ぶ。



- ③「わたしの行動宣言」校内優秀作品を紹介する。



生徒会交流

- ①7月，夏休みに本校と他校の生徒会が取組を交流し，見聞を広め，深める。

【生徒会の感想】
「(他校の)取組がすごく驚いた。自分たちでも考えやってみよう。
「やる気がみなぎってきた。」



夏休みの宿題で生徒の人権作文

～中略～ 傍観者とは、事件に直接関わろうとせず、見て見ぬふりをしている人のことです。傍観者の多くは、自分が行動すると、自分までその事件に巻き込まれてしまうことを恐れています。なので、何も行動に起こすことができません。私は、この行動したくてもできない傍観者に、行動を起こさせることが大切だと思います。

私がこのような考えを持つようになったのは、夏休みに行われたいじめSTOP集会の時です。集会では、生徒会本部の方々がいじめについて話してくれました。その中で出てきた言葉が、「傍観者」です。私はそこで初めて傍観者という言葉とその意味を知りました。そして、傍観者の行動の大切さに気付きました。

～中略～ とはいっても実際、私たちの生活の中で、傍観者になってしまっている人はたくさんいます。自分自身も傍観者になっている時があります。例えば授業中、私語が多くてざわざわしていても先生に注意されるまで誰も声をかけません。服装などのルールを破っている人を見ても、注意はせず見逃してしまいます。日常生活のちょっとした場面で、自分や周りの人が、傍観者になっています。この小さな出来事での傍観者をなくしていくことがまずは大切なのではないでしょうか。

しかし、傍観者が傍観者である理由は「事件に巻き込まれたくない」「行動しても変わらない」という思いがあるからです。このような考えをかき消して行動しようとするには、それなりの勇気も必要ですが、具体的な行動の仕方を知ることが必要です。当事者に直接声をかけることが最も有効ですが、なかなかそれはできません。大人の人に相談するなど、方法はたくさんあります。このような行動の仕方を一人一人が考えて話し合う場を作ってはどうか。そうすれば傍観者となる人は減っていき、普段の生活から悪事を見逃さない環境になっていくと思います。この小さな積み重ねがやがて日本、世界の人々の意識を高めることにつながると思います。「行動の仕方を知り、傍観者にならずに行動を起こす。」これを一人一人が実行していくことで、事件を起こさない、見逃さない、明るい社会を築くことができると思います。

取組の課題・創意工夫 キーワード『定着』

課題 取組を実施したが、その後生徒からの発信の機会が少なく、生徒に「いじめカッコ悪い」の定着が不十分である。

創意工夫 ・授業でいじめについて扱った。・全校集会で訴えた。・生徒会交流会で他校の実践を学ぶことができた。

取組の成果（効果） キーワード『自己肯定感』

生活アンケート

項目	1学期	2学期	差
自分は誰に対しても相手の事を思って行動することができる	76.6%	77.5%	+0.9pt
自分にはよいところがあると思う	61.7%	62.3%	+0.6pt

生徒会本部生徒の感想

・生徒全員で真剣に考える場となり、集会を開いた生徒会本部も達成感を味わうことができた。今後も取組を続けることでいじめのない学校をめざしていきたい。

今後の展開 キーワード『機会を増やす』

・授業でいじめについて考える機会を増やす。
・いじめ防止キャンペーンを打ち出し、全校生徒がもう一度考えるきっかけを作り「いじめカッコ悪い」という風潮がスタンダードとなるようにしていく。

他校へのアドバイス キーワード『生徒発信』

・教員主導ではなく、生徒自身が考え、発信していくように仕掛けることでよりいじめについて考えられるようになると思います。

指定校番号	28097	学級活動	児童会・生徒会活動	○	学校行事	別紙様式
-------	-------	------	-----------	---	------	------

平成 28 年度生徒指導集中対策指定校及び生徒指導実践指定校 「特別活動の取組事例」

学校名	東広島市立向陽中学校	校長	大井博夫	生徒指導主事	二川義美
-----	------------	----	------	--------	------

取組事例名 『生徒会を中心とした生徒の自主性を育てる部活前集合』

取組のねらい『キーワード 自主性の育成』

部活前集合の取組を教師主導から生徒会主導にすることで生徒の自主性を伸ばす。

また、生徒自らが取組目標を設定し、達成する過程を通して、生徒に自信をつけさせる。

さらに、部活前集合において、「挨拶」、「時間を守ること」、「整理整頓」等を習慣化することを通して、学んだことを学校生活に生かす。



取組の具体的内容『キーワード 経験』

- ・部活前集合が充実した自主活動になるように、生徒会執行部と各部活動の部長が事前の打ち合わせを行う。
- ・生徒会執行部と部長が協力して速やかな集合を促し、担当者が毎回時間を計り、目標時間達成を目指す。また、担当者が集合状態や行動の変化を評価したり、全体の前で活動状況や大会結果等を発表する経験を通して、リーダーとしての自覚を持たせる。
- ・生徒会執行部が中心となって毎日の活動の反省を行い、明らかになった課題を改善する。

取組の課題・創意工夫『キーワード 変えよう』

課題

- ・外部のスポーツクラブに所属している生徒は、学校での部活に所属しているが帰属意識が低いことから意欲的な活動につながらない。
- ・部活前集合の取組を学校生活の充実につなげていくための具体策の検討をする。



創意工夫

○学校生活の充実につなげる工夫

- ・取組を向陽三訓と関連付ける。
- ・生徒会を中心とした新しい伝統を作り上げようとする気運を高める。
- ・「目指せ向陽一、東広島一、県一、そして全国一へ」をスローガンに、部活前集合を生徒会・部活動の発表・交流・高め合う場とする。

○生徒に自信をつけさせる工夫

- ・生徒に全体で発表する機会を与える。
- ・「設定時間内に集合する」という目標を一人一人が意識して行動できるよう、生徒が中心となって声かけを行う。
- ・全員での取組を通して、連帯感を共有させる。

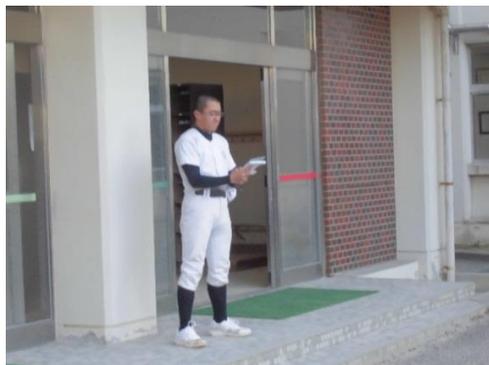
取組の成果（効果）『キーワード 自覚と自信』

- ・ 生徒会執行部の新しい取組と各部長のやる気が、生徒全体に広がり、「自分たちの代で部活前集合から新しい向陽中学校の伝統を作り上げていこう」とする意欲につながっている。
- ・ 生徒会や各部長が部活前集合の司会を経験することで、落ちついて発言できるようになり、リーダーとして自信を持って行動できるようになってきている。
- ・ 気持ちのよいあいさつができる生徒、花いっぱい運動等のボランティア活動に参加する生徒が増えている。また、周囲に対する感謝の思いを伝えることができる生徒の姿も見られるようになってきた。



今後の展開『キーワード 楽しもう』

生徒会を中心に学校生活の向上（挨拶・時間・整理整頓・ルールとマナー等）に向けて取り組む。また、部活前集合において、生徒全員が活動に参加し、自分たちが主体的に行動することを楽しめるようにする。



- ・ 行事（卒業式・入学式など行事）を成功させるため、生徒会と部長による合唱団を結成し、モデルをみせる。
 - 生徒全員で歌声を作る。
- ・ 「向陽三訓」（明るい挨拶・丁寧な言葉遣い・人を思いやる心）を徹底できるようにする。そして、東広島一、県一そして全国一を目指す。
 - 生徒会や教師が評価する。

他校へのアドバイス『キーワード しくむ』

- ◎ 「自分たちがやる。自分たちで変えている。」という主体的な活動になったとき、生徒は一生懸命活動する。また、生徒自身がそのことを通して、どう変わるか・どんなよいことがあるか実感したとき、集団自治能力は高まる。生徒の実態を見て、何をどう仕組んでいくかというビジョンを持つことが大切であると考えている。
- ◎ 活動の目的を教職員・生徒で共有する。
- ◎ 生徒のやる気を継続させるために取組内容をしっかり吟味する必要がある。

